

経済・金融 フラッシュ

中国の銀行融資：

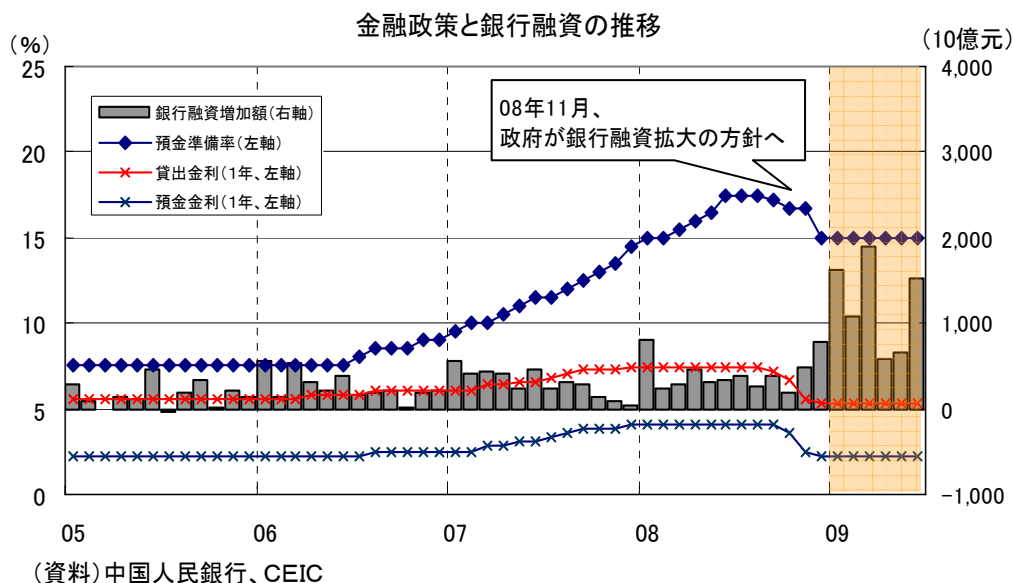
6月は1兆5304億元増と再び急増
中国の金融政策への影響は？

経済調査部門 主任研究員 三尾 幸吉郎

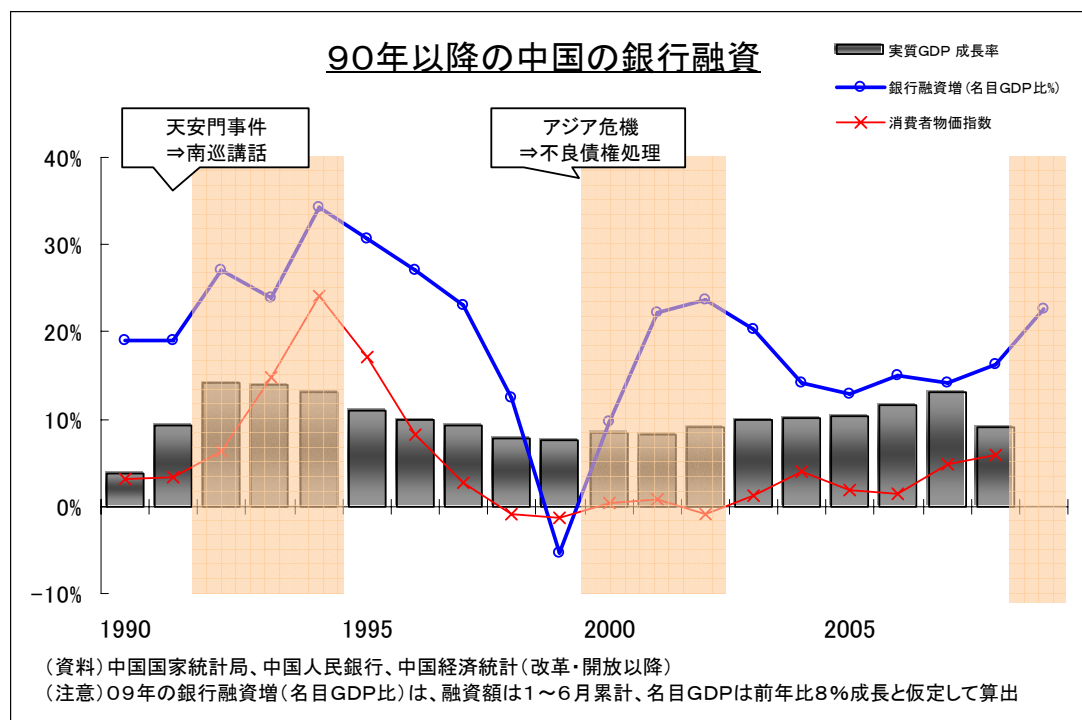
TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 6月の銀行融資が1兆5304億元（約21兆円）増と大幅増加となったことから、市場では「中国人民銀行が融資抑制に乗り出す」との観測が出ている。
- 銀行融資の一部が株式や不動産に向かっていったこともあり、商業銀行に対する融資審査に関する窓口指導が強化される可能性は十分にある。しかし、景気の現状を考えると、当面は「利上げ」や「合理的な伸び」に向けた総量規制が再開される可能性は低い。

7月8日、中国人民銀行は6月の銀行融資額が1兆5304億元増になったと発表した。これにより、09年1～6月累計では7兆3667億元（約101兆円）となり、08年1～6月累計の2兆4452億元に比べ約3倍の増加ペース、昨年度1年間の増加額（4兆9036億元）と比べても約1.5倍に達しており、3月の全人代（日本の国会に相当）で打出された09年度の銀行融資増加目標の5兆元を遥かに上回る事となった。世界的な景気の急減速を受けて、昨年11月に銀行融資拡大の方針が示されて以降、銀行融資は徐々に増加し始め、年が替り09年1～3月には急増、4～5月には増加ペースが鈍化したものの、今回発表の6月は再びの急増となり、市場では「中国人民銀行が融資抑制に乗り出す」との観測が出ている。



下図は、90年以降のGDP成長率と銀行融資の関係を見たグラフだが、今回の銀行融資の急増は、約20年間で3回目となる。歴史を振り返ると、銀行融資の過度な拡大（量的または時間的）は、その後インフレや銀行の不良債権として禍根を残した。今回も名目GDP比で見た銀行融資増加額の割合は20%を超えてきており、その経験も踏まえれば、中国人民銀行は「出口戦略」を考え始めていると見られる。



しかし、6月末に開催された中国人民銀行金融政策委員会の第2四半期定例会議では、「経済成長を促す一連の政策・措置の作用で、経済に前向きの変化が現れた」と景気回復に自信を示したものの、「経済回復の基礎は十分に固まっていない」として景気の先行きに対する慎重姿勢を維持し、「通貨と信用の合理的な伸びを導く」として、中国人民銀行は適度な金融緩和政策を続ける方針を示していた。

一方、今回発表された6月の銀行融資の増加は予想以上に大きく、中国人民銀行が考える「合理的な伸び」の範囲を超えた可能性がでてきた。前述の第2四半期定例会議でも「エネルギー多消費、汚染物質多排出、生産能力過剰業種の企業に対する融資を厳格に抑制」との方針が確認されている。中国政府の中にも、銀行融資の資金が株式や不動産に流れて、実態経済に向かっていないとの懸念があったため、6月下旬には銀行監督を担う中国銀行業監督管理委員会が、商業銀行に対し融資審査の厳格化を指示する通知を出している。従って、中国人民銀行が窓口指導で銀行融資を微修正する可能性は十分にある。

但し、建国60周年の記念式典を10月に控え「保八」（政府が目指す8%成長目標の保持・達成）に向けた大事な時期であり、深刻な雇用問題を抱えるなか「経済回復の基礎は十分に固まっていない」との経済情勢に対する政府と人民銀行の共通認識にも大きな変化はない。①中小企業や農村への金融支援、②消費者金融の発展、③自主革新、M&Aなど産業高度化を目的とする融資については、積極的な支援姿勢を維持していることから、商業銀行の融資審査を窓口指導で強化する等、変更は微修正に止まり、「利上げ」や「合理的な伸び」に向けた総量規制といった大幅な変更は当面ないと見ている。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。